

「ごはん大好き、韓国人！」

キムシンヒョン  
太宰府市国際交流員 金辛玄

韓国では何事につけ「食べる」という表現をよく使います。年を取ることを「年を食べる」というのは日本でも似たような表現があるようですが、他にも、決心することを「心を食べる」、恐れることを「恐れを食べる」、熱中症になったことを「暑さを食べる」など、本当にさまざまな状況で「食べる」と表現します。笑話で「韓国は食べ物に本気の国」と自称するほどです。今回はそのような表現の中から、「ごはん」に関わるものを少し紹介したいと思います。

まず、1つ目の表現は、「炊きあがったご飯に墨を撒く」です。これは物事が順調にいていることや順調にこうとしていることを妨害し、状況が悪化したときに使われる言葉です。



そして2つ目は「豆ご飯を食べる」という表現です。これは刑務所に拘束されることを意味します。昔の刑務所では白ご飯ではなく、豆ご飯がよく出たことが由来です。現在は法の改正により収監者に白ご飯が提供されていますが、それでもこの表現は今も使われています。

これ以外にも、自立して一人前であることを「ご飯代」、安定してクビになる心配のない職場を「鉄茶碗」、習慣的にする行動を「ご飯を食べるように〇〇する」、とても易しいことを「冷め粥食い」、無視されるまたはまともに扱われない立場を「冷や飯の立場」など、色んな表現があります。このように、日本と同じように韓国でも、「ごはん」の文化は日常に深く根差しています。

人権標語

ごめんねで  
こころの雲が  
晴れていく

太宰府小6年 (応募時) みやもと 宮本 絢那さん



やひろ こ  
八尋ヤエ子 (太宰府市観世音寺) 池坊

花材 ススキ、夏ハゼ、リンドウ

季節の生け花

太宰府市華道連盟

つれづれ

太宰府短歌会

「もう少し甘かった」かな たらの胃に  
スーリン二杯のきざりをいれる  
糟屋郡 仲道 朋子

聴衆の渇いた胸に舞台から  
由紀さおりのスキャット熱く染み込む  
東ヶ丘 西木 ミヤ子

靴紐を締めて携わるダム湖道  
水輪抜けてつくつくし鳴く  
大佐野台 宮崎 フミ

煌めきつ揚羽の蝶は愛を舞う  
夕立去りし木木の間  
湯の谷 山崎 八重子

国原に雨あふれゆく人類の  
傲りのつけか蟬なかなぬ日々  
五条 山田 乃ぞみ

太宰府俳句会

持永 真理子 選

早発ちの車窓より追ふ渡り鳥  
青山 柴田 慧美子

検索のフロントを太く秋灯下  
馬場 有岡 和砂

十月の手帳ほつぽつ出事記す  
国分 松尾 満子

秋の空人恋しくて仰ぎみる  
観世音寺 山口 律子

ひんやりと雲間にうかぶ月白し  
連歌屋 吉嗣 のり子

飛梅句会

介弘 紀子 選

水澄むや指に伝はる山の声  
大野城市 田代 りえ子

その先は空に溶けゆく花野かな  
朝倉市 鶴田 ゆき

消灯の声より夜長始まりし  
長浦台 徳賀 美智子

大観望此処より九重まで花野  
うきは市 中川 寿朗

花野へと吸ひ込まれゆく人の波  
馬場 野上 コト子

宝満句会

菅井 久美子 選

風ぐせも乱れも千草らしく活け  
高雄台 川路 泰子

鉦叩姿見せねど鳴き上手  
大佐野台 金丸 恵子

幼子の千草摘み挿す心かな  
大野城市 稲岡 とみ子

行き逢へば積もる話にいわし雲  
高雄台 荒島 由美子

秋草や無縁仏の石二つ  
筑紫野市 名本 剛

都久志てんじん句会

佐々木 甘露子 選

流星や鳴き砂のこゑ波のこゑ  
筑紫野市 西村 悦夫

突然に父母亡き庭の法師蟬  
福岡市 北川 朴洋子

母さんと呼べど声なき虫時雨  
福岡市 宮津 英里子

涼新た辛蔓天へ競ひあふ  
福岡市 塩飽 たか子

新涼や波に崩るる足の砂  
青葉台 彦坂 正学

太宰府川柳倶楽部

小池 一恵 選

たまに来る仲間の便り訃報だけ  
湯の谷 山口 善暉

マシヨンが風情を変えた片田舎  
筑紫野市 吉田 敬子

人混みに亡母がいたよな風の盆  
国分 岸本 しずえ

おかげさん 母の口癖 わかる今  
観世音寺 河原 明子

やれやれ やと我が家旅の荷を解く  
星ヶ丘 武末 次生